TOKIO MARINE Topics (物流関連速報)

アメリカ西海岸地区の港湾における物流改善

TOKIO MARINE NICHIDO
東京海上日動火災保険株式会社
（2017 年 8 月 4 日）

アメリカ西海岸地区の港湾では、アジア各国からのコンテナ取扱量が過去 10 年間で大幅に下落した経緯を踏まえて、物流改善に向けた各種取組みが実行されています。今号では、アメリカ西海岸地区の港湾におけるインフラ整備やオペレーション改善の概要と物流に与える影響についてご案内致します。

1. アメリカ西海岸地区の港湾の現状と、改善にむけた取組み

アジア各国からアメリカへ輸入されるコンテナ取扱量におけるアメリカ西海岸地区のシェアは過去 10 年間に渡って 11.6%下落しました。同地区で発生した港湾ストライキや、港湾従業員減少等の影響により、増大する輸入コンテナに対応できる労働力を確保できず、多くの輸送業者が東海岸地区やメキシコ湾岸部に物流拠点を移転してきました。一方で、昨年のパナマ運河拡張の影響により、ヒューストンやニューオーリンズ等のメキシコ湾岸部が優位性を高め、シェアを着実に伸ばしてきました。

こうした情勢を踏まえ、アメリカ西海岸地区では、最先端のコンテナターミナル建設に向け数十億ドル規模の設備投資を実行しています。近年は 10,000TEU 以上の大型コンテナ船からの荷卸しに対応できる、効率的なコンテナ陸上輸送システムのニーズが高まっています。コンテナ貨物を取り巻くこうした環境の変化に対応すべく、トラックや鉄道等の異なる輸送機関を組み合わせてコンテナを輸送する「インターモーダル輸送」のインフラ拡張が各港湾で進められ、港湾周辺の鉄道路線や高速道路の整備が着々と進められています。

また、アメリカ西海岸地区の港湾ではコンテナヤードの過密化や輸送トラックの渋滞が問題となっていましたが、荷主毎のコンテナ保管場所が指定され、トラック業者向けの予約システム等が導入されたことで、港湾内のオペレーションが改善しているとのことです。

2. 物流に与える影響

海運会社・輸送会社・港湾戦略等と連動した陸上輸送システムの構築は、輸送の効率化や輸送コストの削減に繋がると言われています。アメリカ西海岸地区の主要港湾においては、陸上輸送システムの更なる拡張が決定されており、アジア各国からの物流拠点としてますますの利用が期待されます。

港湾内のオペレーション改善により、荷卸しから輸送トラック積込みまでのリードタイムが短縮される為、輸送会社や荷主の利便性が高まり、輸送サービスの品質向上が見込まれます。

3. 今後の見通し

アメリカ西海岸においては競争力を一層向上させる為の対策として、既に一部の港湾で実施されている自動 RMG(※1)や自動スタッキングクレーン(※2)の導入による「次世代自動化コンテナターミナル」の展開が予定されています。

今後、世界的なコンテナ貨物獲得競争に生き残る為、港湾の競争は更に激化します。その為、港湾規模の拡大や港湾内オペレーションの効率化に向けて、アメリカ西海岸地区内の港湾やコンテナターミナルの経営統合も進展することが予想されます。

※1：レールカートによりコンテナを段積みする自動クレーン（RMG＝Rail Mounted Gantry Crane）

※2：コンテナの受け渡し・巻き上げ・横持ち・段積み等、複合された荷役を行う自動クレーン

◇◆◇◆◇◆